

もも・ネクタリン特報

No. ⑤

2023. 5. 17

J A 中野市営農センター
J A 中野市りんご・もも部会

この特報は、5/1 発行の「もも・ネクタリン特報No.④」の薬剤散布（散布目安は、5/20～25 頃）が終わってから行なう防除を掲載しています。特報No.④の内容を再度、ご確認ください。

もも 第7回薬剤散布

散布時期	6 / 5 ~ 10 頃（目安となります）	◆ 散布日：6月 日	
散布薬剤	水	1000 当り	◆ 散布量： リットル
	展着剤（アビオンE）	50 ml	
	劇 デランフロアブル	166 ml (7 日前、4 回)	
	劇 ダーズバンDF	33 g (14 日前、5 回)	
	マイコシールド	66 g (21 日前、5 回)	
対象病害虫	せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類、ハマキムシ類、ウメシロカイガラムシ		
散布量	10アール当り：500リットル		
注意事項	カメムシ類対策：スミチオン乳剤の1,000倍（3日前、6回）を加用する。		

ネクタリン 第7回薬剤散布

散布時期	6 / 5 ~ 10 頃（目安となります）	◆ 散布日：6月 日	
散布薬剤	水	1000 当り	◆ 散布量： リットル
	展着剤（アビオンE）	50 ml	
	劇 デランフロアブル	166 ml (14 日前、2 回)	
	劇 ダーズバンDF	33 g (14 日前、2 回)	
	スターナ水和剤	100 g (7 日前、3 回)	
対象病害虫	せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類、ハマキムシ類		
散布量	10アール当り：500リットル		
注意事項	晩生種せん孔細菌病対策 スターナ水和剤に代えてマイコシールドの1,500倍（28日前、5回）を使用する。		

次面もご確認ください

- ・せん孔細菌病（春型枝病斑）について
- ・今後の管理作業について

次回特報配布

発行予定日：6月1日
6月中下旬の薬剤散布について
散布日目安：6月20～25日頃

【重要】

本年のせん孔細菌病発生状況は、昨年と比べるとやや多い状況となっています。本年も先端部から中間部また基部にも発生が見られます。春型枝病斑の切除を実施する際は、先端部以外の確認も行い見落としのないように除去作業を行って下さい。

「せん孔細菌病」春型枝病斑除去 撲滅週間

期間：5月15日（月） ～ 5月26日（金）

「せん孔細菌病」春型枝病斑の発生が始まっています。そのため、昨年引き続き枝病斑切除の強化週間を設定いたしました。

もも・ネクタリン栽培者の方におかれましては、作業のお忙しい中ですが枝病斑切除の徹底をお願いします。

切除方法

- ① 結果枝の先端部・中間部を点検する。
- ② 枝病斑よりも基部の健全な芽を3～4芽含んで切除する。



【今後の管理作業について】

本年、凍霜害被害により結実不良が心配される園地では、以下の着果管理をお願いします。

予備摘果

※結実不良が心配される園地では、極力行わない。

※生産量確保のため、着果位置の悪い果実でも残す。

仕上げ摘果 ⇒ 見直し摘果（必要に応じて）

- ① 満開後40～50日頃実施
- ② 本年は、5月20日～5月30日頃を目安に実施する

もも 結果枝別着果量の目安

結果枝	予備摘果	仕上げ摘果
長果枝	2～3個	1～2個
中果枝	1～2個	1個
短果枝	0～1個	0～1個

（長野県果樹指導指針より）

仕上げ摘果の要領

低温被害等により結実にバラツキがある場合や不足している場合 ※必ずお読み下さい。

⇒ 品質・着果位置が悪くても基準量確保に向け残す（樹冠の上下・着果位置に拘らず果実を残す）

⇒ 低温被害園地では、目線より下部に多いため樹上で着果調節を行う（樹上でやや多めに着果させる）

- ・ 成木10a当りの目標着果量は、10,000～12,000果とする。樹勢が弱い場合は、着果制限する
- ・ 残す果実は、大きくて扁平な果実を残す
- ・ 着果位置は、結果枝の側方、または下方の果実を残す（上方は摘果する）
- ・ 長果枝（30cm以上）が2果、中果枝（10～30cm）が1果、短果枝（3～10cm）が6～10枝に1果着果させる
- ・ 葉枚数は、モモが1果当たり40～60枚、ネクタリンが30～40枚必要
- ・ 順序は、白鳳系・あかつき・なつっこ・白根 → 川中島白桃・ネクタリン → 黄金桃とする（黄金桃やファンタジアは生理落果が多いためやや遅めに実施する）

